



# かさ かえで 傘 楓

平成 28 年  
春 彼岸 号

## お葬式の意味とは

節分(立春)も過ぎ、厳しい冬の寒さも和らいで参りました。おかげさまで、私もご本山に出仕して三度目の春を迎えられそうです。

さて、最近では『家族葬』なる言葉をよく耳にします。また、場合によっては『直葬(亡くなったなら葬式もせず)に、すぐ火葬をしてしまう事』という葬送の形式も、私が今お世話になっているご本山の近郊では行われるようになってきました。

坊主が「今はお葬式に対する考え方も変わってきている。」と言えば簡単ですが、**そもそも『お葬式とはなんであるか、何のためにするのか』**ということを、真剣に説かず放置した結果、生まれた考え方や言葉ではないでしょうか。

今回はせつかなので、皆様と一緒に「お葬式の意味」というものを考えてみたいと存じます。

なぜなら、我々というものは、この世に生まれたら必ず死ぬ存在だからです。これは絶対の真理で、異論なく皆様も納得するでしょう。それでは、亡くなったら必ずお葬式が必要かと言えは…それは、極論で言えば必要ございません。

それでは、なぜ我々は葬儀というものをこれまで行ってきたのでしょつか？

仏教では「本来、我々は六道(地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上)の世界を生まれ変わり死に変わり、終わりのない苦しみを受ける存在である。」と説かれています。

命を授かると同時に、生きていく辛さ、老いてゆく悲しみ、病気の苦しみ、そして命果てる死への怖れ、これらの苦しみから逃れられず常に苛まされる存在である、ということなのです。

その六道輪廻の苦しみから逃れるために、宗祖一遍上人はお念仏の教えを説いて下さいました。

それは、「たとえ信じきれない者でも、ただお念仏を称えれば、阿弥陀仏の本願のご慈悲により、誰もが極楽浄土に往生し、その苦しみから解放される」という救済の教えです。

ですから、時宗においての葬儀とは、亡くなられた方が確実に極楽浄土に往生できるように、今一度お釈迦さまと一遍上人のお教えが集約されたお念仏によつて、阿弥陀仏の救いに叶い、必ず苦しみの世界から解放されるという意味合いを持つています。そして、この儀式を経ているからこそ、坊主も亡き人が必ずたどり着く極楽浄土の話や往生する喜びを、皆様に自信をもつて話すことができるのです。

また、病気で苦しんだ方や不慮の事故や天災に巻き込まれて急に亡くなった方、生きる苦しみから自殺なされた方、皆の願いが届かず早世された方、そういった方々を送り出してきたご家族も「この世では苦しんだあの人も、今は極楽浄土で幸せに暮らしているはず…」という想いを得て、悲しみを胸に抱きながらも、葬儀という心の「ふんぎり」を経て、前を向いて歩いていける希望となり得るのです。

「私は神も仏も信じておりません。」「遺言ですので、戒名もいりません。葬儀も行いません。」というお考えの方々は、皆様の中にもいらっしゃると思います。

また、私の教え子の中学生の中には『人間に魂などというものはなく、死んだら完全に「無」になるだけだ。』という言葉をもらした子もいます。

それは、その人の自由な想いですので、私は否定しません。ただ、極楽往生の証となる戒名を授かっていない方が、次はどこの世界で生まれ変わったのかを、私はお答えしようもなく、またご遺族に対して慰めの言葉もかけようがないということも、今までのお話でおわかり頂けたかと存じます。

また「死んだらおしまい」という考え方も私はもっておりません。その考えでは、我々は必ず不幸で終わってしまう存在ということになってしまふからです。

今までの話を信じる信じないは皆様の勝手です。ただ、苦しみの世界を巡り巡るにしろ、お念仏の機縁により極楽浄土へ往生するにしろ、「**我々の命に終わりは無い**。」と私は信じております。

葬儀というものは、簡単に言えば「卒業式」ではなく、むしろより良い世界への「**入学式**」であり、次のステップに進むための節目として絶対に必要なものと考えております。

入学先(極楽浄土)でのご先祖さまと我々との関係については、また次の機会にお話させて頂きたいと存じます。

# おねがい!

## お焚き上げ場所に生花やゴミを

### 捨てないで下さい

毎年、八月十三日には古くなつたお塔婆や役目を終えた「四十八」や仏壇などを、新墓地脇で「お焚き上げ」をし、供養しております。

ただ最近、そのお焚き上げ場所に、お墓にお供えして枯れってしまった花やゴミを捨てる人がいらつしやいます。

立て看板にも「神聖な場所ですので、生花やごみを捨てないで下さい」と書いてあるにも関わらずです。

以前のこの新聞に書きましたが、塔婆はひとつひとつがお墓の代わりとなるものです。「四十八」は、極楽往生したばかりの魂が、お盆の時にこの世へ迷わず里帰りできるようにと、目印となる蠟燭を灯す、願いが込められた仏具です。

誰も見ていないからと言って、人様のお墓にゴミを捨てていくような事を誰もしないと私は信じております。

お焚き上げ場所も同様にお考えいただき、塔婆やその他の仏具を、ただの木片として扱わないで下さい。

「ゴミを当てるで「護美」と書いたりします。

いつでも気持ちよくお墓参りが出来るように、皆様おひとりおひとりが美しさを護る気持ちを忘れずに、自分のお墓から出たゴミはお持ち帰りくださるようご協力をお願いいたします。



# 寄付紹介

## ● 寺墓地 増設工事

### 山口 トキ様(山口地区)

山口地区の公葬地は、大変静かな環境で、ご先祖様が眠る場所としては最適でした。

しかしながら、その場所へつながる道路が狭くて車が行き交うことも出来ず、お盆の折には徒歩でお参りしに行かなければならない大変難儀な場所でもありました。

また、近年の豪雨により、その道路の土砂もえぐられて、車そのものの通行が危ぶまれ、安全面でも問題になっておつたようです。

昨年、山口地区の方々が協議を重ね、山口地区の公葬地からの移転先として、この度慈光寺の裏手の牧草地を山口トキさんが買い取って頂き、新たに墓地を増設して下さいました。

当然、移転に際しては経費もかかることもあり、公葬地の利用者の方々の理解を得るまで時間を要し、また不慣れな場所で最初は戸惑うこともあつたかと存じますが、駐車場も完備し、本堂で法事や葬儀の折には法要後すぐにお参りができる「寺のそばでよかつた」と思える時が来るかと存じます。

公葬地利用者の方々との時間と距離とお心を縮めて頂いたことに感謝し、この場を借りて御礼申し上げます。

## ● 境内清掃及び雑草刈り払い奉仕

シルバー人材派遣センター有志様

高砂・久慈城(新町)・森・溪流老人クラブ様

毎年、お盆前や開山忌前に刈り払いや草取りをして頂いております。境内維持にご協力頂き有り難うございます。

# 編集後記 (春彼岸がやってきます)

最近、寺報「傘楓」の発行時期が不規則になつておりますが、これはひとえに副住職である私の怠慢です。

大変申し訳ございません。

言い訳が許されるなら... やつぱりご本山から久慈に帰つてくると、仕事をしなければ! と思いつつも、ついつい気が緩んでしまい家族のそばでのんびり過ごしたくなつてしまいます。

まあ、これを怠慢と呼ぶので、言い訳になつていませんが...

「これからは気をつけます!」と断言できないのが、怠け者の私の悲しいところです。これからも時間を見つけてはこまめに発行して行きたいと存じます。

間もなく春彼岸がやってきます。

春彼岸法要の折には、また久慈に戻つてきておりますので、お時間のある方はぜひ法要にご参加いただき、フヌケ顔の私を見に来て下さい。

最後のまで読んで頂き有り難うございます。(副住職)

## 慈光寺からのお知らせ

### 法事の際の生花も

### お墓にお供えしてあげて下さい。

これからは法事終了後に生花をお返し

いたしますので、お塔婆と共に

お供え下さい。合掌

